

てんたい新聞



二十代り頃、帰省した時父親に「戦争に行つた事を」を問いつめに記憶がある。

ひせ戦争に行つたのか」と。

「はうらむのしと父親はうらむ、そんな事を思い出す昨今。

ひせとの時、それを止め山をさつたのか。仕えがひせのどのうつか。止める「行動」がとれなかつたのは、何が原因なのか。

何十年後の若者に向いてもういって答えられる様でありたい。

戦争戦争戦争

は、防衛を名目に始まる

は、兵器産業に富をもたらす

は、おぐに制御が効かなくなる

は、始めるよりも、終えるほうが難しい

は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす

戦争

は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる

いから、私は「戦争法廃案」には反対するのです。

たまご七月に、送って下さった本の中に山崎豊子の「二つの祖国」があり読みました。

たまごが真珠湾攻撃から終戦（敗戦）後二年までの間が、アメリカ国籍の日本人二世をめぐり戦争というものが、どれだけの個人の自由を無視に、人互傷つけるかという事を示してくれていることが語られている。



15.8 No.218
発行責任
0883-88529

手紙、この法案に賛成の人からと手紙と新聞の切り抜きを送るという企画をします。

賛成の人の考えをば

～自由と平和のための京人有志会

ここに重点をおくのかという事は理解がまずい。

が、私にとって中国が敵とは考えられません。長い歴史の中でお互いに山を越え多くの事を学びあつて来たのか、そして、今では、あつちの面が、中国を基盤にして考えられるのでしょうか。

とこそ無理ごとおこします。

いから、敵はひいのです。

中国のやうな、世界の国々で敵とみなす国があるとするは



それは不幸な事だ。

平和は一人一人が責任をもち行動し協力することによって保たれるのだ。

はい、かとおこします。

あまり難しい事はよくわかりませんが、戦争をする国の国民が平和を幸せがめようとは思ってありませんよ。

今日は、こんな紙面になりましたが、祖谷の様な山奥が暮らしている、変化は変化する、い続けるいとおこします。

ほこいさんご。

日本という国は、本当に民主主義の国なのだろうか。

この頃、さだか事案が考えこま